

認定NPO法人

多文化共生センター東京 ニュースレター

Multicultural Center TOKYO®

News Letter

学びあい、わかりあう

mingle

みんぐる

Vol. 42
2013
10月号



Top News

多文化の夏休み

<http://tabunka.or.jp/>

多文化共生センター東京

検索

多文化 VOICE 2

イチオシ! & ボランティアの声 3

たぶんかフリースクールの毎日 4

最近の活動報告 5

いいね! フリースクールのできごと 7



認定NPO法人

多文化共生センター東京の紹介

Multicultural Center TOKYO

私たちのビジョン

私たちは、国籍や言語、文化の違いをお互いに尊重する社会を目指しています。
外国にルーツを持つ子どもたちの教育、とくに高校進学に力を注いでいます。

私たちが思い描く多文化共生社会とは、国籍や言語、文化、民族などの異なる人々が、互いの違いを認め、対等な関係を築こうしながら共に生きていく社会です。外国にルーツをもつ人々が、不当な社会的不利益をこうむることなく、また、それぞれのアイデンティティを否定されることなく、社会に参加することを通じて実現される、豊かで活力ある社会です。多文化共生社会を実現するためには、以下の3つの視点が必要だと考えます。

基本的人権の尊重

「ことば」「制度」「こころ」の壁に起因する社会的不公平によって、誰もが等しく持つ権利が損なわれる不公平を是正する

少数者への力づけ(エンパワメント)

自分の文化や言語を享受できる環境づくりや安心して自分を出せる居場所づくりにより、少数者自らが自分自身を支えていく

社会へのアプローチ

「日本人」・日本社会が少数者の置かれている状況を理解するとともに、多文化共生社会の意味や大切さ、(大変さ・楽しさ)を理解し、多数者である「日本人」も変わり、少数者とともに生きていく。

私たちのミッション

外国にルーツを持つ子どもたちの教育を受ける機会の拡大に努めます。

教育実態調査、多言語高校進学ガイダンス、「たぶんかフリースクール」の実践など、外国にルーツを持つ子どもたちの日本語・教科・高校進学支援を通して、外国にルーツを持つ子どもたちを正規の学校へつなげます。

外国にルーツを持つ子どもたちがそれぞれの持つ個性や能力を発揮し、
日本社会で活躍できるような教育の実現に取り組みます。

「たぶんかフリースクール」での日本語・教科・キャリアデザイン教育、行事・イベントなどを通じて、外国にルーツを持つ子ども達が日本の社会で各々の個性や能力を発揮できるようサポートします。

国籍、言語、文化の違いを認めてお互いを尊重する教育の実現に取り組みます。

講演やワークショップ、イベント、広報活動、教育実態調査、ボランティア機会の提供により、多文化共生の理念を広く社会に広げます。

私たちの取り組み

外国にルーツを持つ子どもたちが毎日通え、日本語や教科を勉強できる学びの場を提供しています。

：たぶんかフリースクール

主に学齢超過生徒や母国で中学を卒業した生徒を対象に、高校受験を目指した学習をサポート。荒川区内の中学校に通う来日後間もない生徒への日本語指導。

多くの皆さんに知りたいいただくための
働きかけをしています

- ：外国にルーツを持つ子どもへの教育実態調査
- ：研修会・セミナー・ワークショップ等への講師派遣、人材育成、自主セミナー
- ：メールマガジン、ブログ、ニュースレター「みんぐる」の発行

外国にルーツを持つ親子へ、多言語で教育に関する情報提供しています

：教育相談

：多言語による高校進学ガイダンス

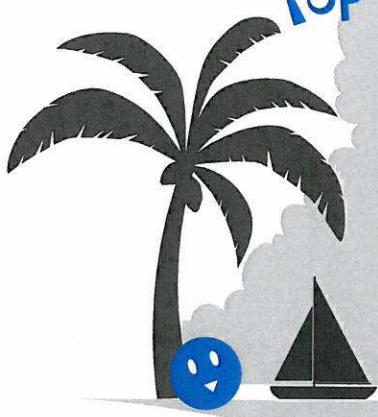
ボランティアとして多くの方に関わっていただく機会を提供するとともに、子ども一人ひとりへきめ細かいサポートを行っています。

：子どもプロジェクト（学習支援）

毎週土曜日、中高生を対象に日本語や教科をボランティアが一対一でサポート

：親子日本語クラス

毎週土曜日、小学生以下の子どもへは日本語や学校の勉強、親へは生活に必要な日本語を一対一でサポート



Top News

2013年 遠足！お祭り！BBQ！…勉強も 多文化共生センター東京の“夏”

子どもたちは日頃、勉強に大忙し。たぶんかには定例行事やクラブ活動がないので、自宅とたぶんかとの往復になります。でも今年は、多くの皆様のご協力で、いつもと違う場所で多くの人とふれあえた、イベント盛りだくさんの夏休みになりました。もちろん、8月6日からの夏季集中コースや最終週の宿題サポートウィークでしっかり勉強もして、入試に向けて頑張りました。

7/6(土)

鎌倉・江ノ島 遠足

たぶんかフリースクールのイベント
セールフォース・ドットコムの協力で
鎌倉・江ノ島へウォークラリーに出かけました。中には「生まれて初めて海
をみた」という子どももいました。乗り慣れない電車に乗って知らない場所
をめぐる、文字通り「大冒険」の1日
でした。

8 August

日	月	火	水	木	金	土
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	2	3	4	5	6	
8	9	10	11	12	13	
5	16	17	18	19	20	
2	23	24	25	26	27	
9	30	31				

夏季集中コース(8/6～24)
小中学生 夏休み宿題サポートウィーク

8/24(土)

BBQイベント

たぶんかフリースクール・ハートフル のイベント

UBSより夢の島公園でバーベキューイ
ベントに子どもたちをご招待頂きました。
好天のもと、焼いたお肉を食べたり、
水鉄砲やバドミントンで遊んだり。
たぶんかには運動場や体育館がないため、
思いっきり体を動かしてリフレッシュ
できました。



7 July

日	月	火	水	木	金	土
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	2	3	4	5	6	
8	9	10	11	12	13	
5	16	17	18	19	20	
2	23	24	25	26	27	
9	30	31				

8/3(土)

荒川区西尾久6丁目 夏祭り参加

親子日本語クラスのイベント

この4月に移転したばかりの本校・
事務局ですが、地元西尾久6丁目町
内会の皆様にお説いて夏祭りに
参加しました。法被を着ておみ
こしを担いだり、日本のお祭りの賑
わいを味わったり、たぶんかだけでは
味わえない、楽しい夏のひと時と
なりました。



8/17(土)

卓球大会

子どもプロジェクトのイベント

本校の廊下に置かれた卓球台を、普段は
勉強で使っている教室に移動。教室が卓
球場に早変わり！卓球経験のある子も、
不慣れな子も、20名を超す子どもたち
が白熱したゲームを繰り広げました。



9/8(日)

多文化★ユースフェスタ

たぶんかフリースクールのイベント

2013年もUBSに特別協賛を頂き、
東京ボランティア・市民活動センター
と共に、「多文化★ユースフェスタ」
が開催されました。たぶんかフリース
クールからは新宿校、荒川校、卒業生
の3グループが出場。歌や楽器演奏、
ダンスを披露しました。

9 September

日	月	火	水	木	金	
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	
1	2	3	4	5	6	
8	9	10	11	12	13	
15	16	17	18	19	20	
22	23	24	25	26	27	
29	30					

多文化共と EISJ

EISJ 理事長：ブパール・マン・シュレスタさん

私は、10年前留学生として来日しました。現在は、株式会社 GMT インターナショナルの常務、NPO 法人ネパール教育支援センターとエベレスト・インターナショナル・スクール・ジャパン（EISJ）の理事長、千葉商科大学サービス創造学部の非常勤講師に就任しています。日本語の勉強を終えて、大学院に入学し、企業の社会的責任又は社会貢献についての研究に取り組みました。私自身も自分が住んでいる社会やコミュニティのために何か貢献することができればと考える性格をもっており、とくに教育の分野で貢献したいと思っていました。大学院を卒業してから、在日ネパール人向けに様々な情報を提供するために日本初で、唯一のネパール語の新聞を発行する会社を設立し、新聞やオンライン・ニュースポータルのようなメディアとデザイン事業を営んでいます。

今から約 110 年前、1902 年に 8 名のネパール人が留学生として初めて来日してから様々な目的で来日するネパール人が徐々に増加しています。その中で、日本で長期滞在するネパール人の数も毎年増加しています。日本で長期滞在するネパール人の増加につれて日本で出生するネパール人の子供たちも増加している。このような状況のなかで、私はメディア関係の仕事をしていたので、在日ネパール人との情報交換もできるようになりました。その際、ネパールにいる子供たちを日本につれてきたがる多くの人々と出会いました。しかし、言葉の問題とともに、教育させる学校がなかったので、子供たちを自分から離さなくてはならなくなっている現状でした。なぜなら、途中から日本に來ても日本語で勉強するがなかなか難しく、英語や母国語で勉強ができる学校がなかったからです。子供たちを親から離すと適切な教育をはじめ、日常生活にも親の指導がつかなくなり、最悪の場合は、子供たちは悪い生活習慣に陥ることも考えられます。

よって、日本に在住するネパール人たちは自分の子供たちを日本で教育させることを望んでいました。一方で、日本で生まれ育った子供たちは、日本の学校や保育園に通うと日本語しかしゃべらなくなり、自国にいる親戚や家族とのコミュニケーションもできなく、家族間にあるべき関係もなくなるような悲しみも在日ネパール人のなかにありました。

日本では、いくつかの英語で学べる学校はありますが、ネパールの言葉や文化なども学べる学校はありません。在日ネパールコミュニティのこのような様々なニーズや問題に応えるために、何かできればと考え、EISJ の設立を計画しました。その第一の目的は、離れ離れの生活を贈っている多くの親子を日本で一緒に住み、親の目の前で子供たちの未来をつくる環境を提供することです。また、自国の言葉や文化などを教えるながら、国際的な環境に適するグローバル人材を育てるのはもう一つの目的です。

このような学校を運営するために母体となる組織・団体として NPO 法人ネパール教育支援センターを登録することになりました。そのために、プラディップ・タパさん（現在の校長）と河辺亮輔さんをはじめ多くのネパール人や日本人の方々から協力をいただきました。私たちの計画が実現させるまでには物件探し、融資や教員採用など様々な苦労がありました。皆さんのご協力のおかげで約 1 年間の準備で今年の 4 月に EISJ を開校することができました。16 名の子供たちから始まった我が校には、現在は 41 名の子供たちを通っています。その内、日本人 5 名とスリランカ人 1 名も通っており、私たちが考えているインターナショナルな環境で子供たちが楽しみながら勉強しています。今後とも子供の数は増加することを考え、より一層の良い環境で子供たちに教育をしていくことができるることを願っています。

イチオシ



『おじいさんと草原の小学校』

2010年 / イギリス / DVD 103分

監督：ジャスティン・チャドウィック

本作品は実話をもとに作製された映画である。主人公マルグはケニア人の84歳の杖をつく老人。ケニアでは無償の小学校が新設され、そこにマルグが通うことから物語は始まる。

当初は学校に入学を願うものの、何度も追い返される。しかし教師オビンチュの助力によりマルグは入学をはたし、文字を習い始める。やがて小学生と机を並べてabcを学ぶ老人の小学生は世間の注目を浴びることになる。無償教育の広告塔のようにも扱われる。しかし子どもの教育の機会が奪われると他の生徒たちの親は抗議の声を上げる。というのも学校には200人の生徒に対して50脚の机しかないからだ。また周辺住民たちからも有名になったマルグに対して嫌がらせが続き、マルグの理解者であるオビンチュにも圧力がかけられ、左遷を命じられる。

こうした状況の中でもマルグが学校に通い文字を読めるようになりたいと願う動機は作中で明らかになっていくが、それは苦難に満ちたものであり、その記憶が甦っては彼を苦しめる。

人にとって学ぶ理由は様々であろう。義務教育だから学校に行く生徒もいるだろうし、また別の目的で学び続ける大人もいる。マルグが学ぶ理由も当初は個人的な動機であった。しかし彼の教育に対する思いは「広く子どものためのもの」へと変わり、その思いがついには行政をも動かす。

本作品は第一に教育とは誰のためのものなのか、そして成人に対しても自分にとって学ぶこととはどういう意味があるのかという問題を今一度考えるきっかけを与えてくれる作品である。(鴻森)

ボランティアの声



山谷 峻さん

約2週間、多文化共生センター東京でインターンをしました、山谷峻です。現在、渋谷教育学園幕張高等学校2年生です。学校の夏休みの間、何か自分の経験を生かせる面白いことをやりたいと、思い切って多文化共生センター東京にきました。

小学校一年生まで、カルiforniaのサンディエゴに6年間ほど住んでいました。生まれてすぐ行ったものだから、当然最初に習う言語は英語。日本語は後から、日本の小学校に通いながら覚えていきました。日本語を習うということはどうも、とても苦しいことです。僕も「あいうえお」から始まって、「わをん」までいくと、今度は「あいうえお」を忘れているなんてことはしおっちょでした。

インターンの期間中、ある生徒を1対1で教える機会がありました。その生徒は少し勉強が遅れているところもあって、日本語に苦労している様子でした。本人も、絶対無理だ、ゲームをやりたいと口癖のように言っていました。そんな彼の様子を見て、僕はとても苦しかった。なぜなら、それはまさに、昔日本語を全く勉強していなかった頃の自分と重なったからです。そして、僕は日本の小学校に行ってからひどい目にあって、ひどく後悔をした。彼には同じ経験をしてほしくはない。しかし、僕には彼を根本から変える力はなかった。

教育者とは生徒のやる気をいかに引き出すことができるかが勝負だと思う。そんなことができる人になりたい。そう強く思った14日間でした。

たぶんか フリースクールの 毎日

TABUNKA
FREE SCHOOL.

<フリースクール（新宿校）>

新宿校では夏のみ、フリースクールだけで勉強している生徒と、中学3年生が一緒に勉強しました。フリースクール生は中3生に日本の学校はどんなところか聞くことができますし、ふだんは日本の中学校でがんばっている中3生は休み時間や放課後におもいっきり母語でおしゃべりができます。

イベントも多く、とても賑やかな夏でした。

9月にはいり、あらたに9名の生徒が加わり、現在は25名。これまでいちばん生徒が多く、教室はすしづめ状態…。それでも近づく受験を前に生徒たちは一生懸命、でも楽しく勉強しています。

事務局 中野

<フリースクール荒川校>

7、8月は楽しい行事がたくさんあり、参加している生徒たちはとてもいい顔でした。

現在、生徒数は33名です。子どもたちは、相変わらずにぎやかですが、徐々に高校受験を意識しています。授業後、行事を通じて仲良くなった男子グループ”は「人生について語ってます！」と暗くなるまで話していたり、「高校に入れるか、すごく不安だ」「試験の日はいつ？」「昼間仕事して、情報の勉強ができる高校は？」など相談したりしている姿も見られます。

今年度は、数学・英語の力のある生徒が多く受験していた3教科受験の板橋有徳高校が5教科受験に変わるなど、受験内容の変更が他校でもあり、外国にルーツのある生徒たちにとって、高校受験は厳しい状況になっています。

担任の先生との二者面談を皮切りに、本格的に受験に向かい始めている生徒たちです。

事務局 枠木

<ハートフル>

4月から通室していた日本語初期指導の3名の生徒のあと、6月から中学生が1名、7月以降元気すぎる小学生2名が加わって日本語を楽しく勉強しています。連日の猛暑の中、指導日は一日も休まず頑張ってくれました。

7月は国立科学博物館への校外学習や、8月にはBBQにも参加しフリースクールの多国籍の多くの子どもたちの中に入ってとても楽しんでいました。

すでに、初期指導を完了した生徒もいますが、9月から中学生の2名が新たに初期指導を受けていますので、いま、5名の生徒が日本語の習得に懸命に努力しています。

ハートフル初期指導を受ける小学生、中学生は、日本語が話せない、理解できない、学校で真の友人ができない、授業が分からぬなど、多くの悩みを抱えながら、初期指導の授業を受けています。授業の前、教室に入ってきたときの生徒の明るい笑顔に接するとホッします。一日も早く、親しい友人を得て学校でたくさんの笑顔がみられるよう頑張ってほしいと思っています。

ハートフル担当 根岸

<鎌倉遠足>

本年度、多文化共生センター東京は、セールスフォース・ドットコムファンデーションによる Healthy Communities Project のパートナーとして選ばれました。

Healthy Communities Project とは、セールスフォース・ドットコムの社員の皆さんのが生活・勤務する地域社会に対し、革新的な非営利活動している団体とパートナーシップを結び、よりよい地域社会をつくるために、特に教育・健康・就業をテーマにコミットするプロジェクトです。

詳しくはこちら→

<http://blogs.salesforcefoundation.org/2013/07/26/healthy-communities-japan-with-multicultural-center-tokyo/>



7月6日、このプロジェクトの第一弾のイベントとして、たぶんかフリースクール荒川校・新宿校の子どもたちとセールスフォース・ドットコムのボランティア社員の皆さんが鎌倉・江の島へ遠足にいきました。当日はチームに分かれ、ウォーキング形式で海・神社・お寺・大仏などをめぐりました。遠足は決められたポイントに行ってタスクを達成するとポイントを獲得できるゲーム形式で行いました。来日まもないたぶんかフリースクールの子どもたちの多くは毎日自宅とたぶんかの往復で、あまり遠くに出かけたことはありません。海を初めて見た子どもたちが大はしゃぎしている様子もみられました。彼ら・彼女たちにとって、予想以上に楽しい一日になったようです。

<バーベキュー>

8月24日、グローバルな金融機関である UBS より、夢の島公園でのバーベキューイベントに、たぶんかフリースクールで学ぶ子どもたちをご招待いたただきました。天候にも恵まれ、社員の皆さんのが焼いてくださる美味しいお肉はあつというまになくなりました。また、子どもたちの輪の中に社員の方が入り、自分の経験を伝えて、

子どもたちをはげます場面も見られました。たぶんかフリースクールには運動場がないため広い場所で体を動かすチャンスがなかなかありません。子どもたちは、大はしゃぎで走り回り、思いっきり体を動かすことができたこともうれしかったようです。「今日は本当に楽しかった」と、とても喜んでいました。

<多文化★ユースフェスタ>

2013年度の「多文化★ユースフェスタ」は9月8日に千代田区永田町の星陵会館で開催されました。外国にルーツを持ち東京や東京近郊に住む子どもたち及び若者たちが、音楽やダンスを通じて自分たちの思いや可能性、存在をアピールし自信をもってもらいたいという思いで、東京ボランティア・市民活動センターと共に、UBSには特別協賛をいただき、毎年開催しています。たぶんかフリースクールからは新宿校、荒川校、卒業生の3グループが出場。歌や楽器演奏、ダンスを披露しました。練習時はまとまりがなく音程がはずれ、どうなることかとスタッフは心配していました。しかし本番はどの子も120%の力を發揮し、嬉しい驚きとなり、子どもたちの底力を強く感じました。

表現力にすぐれたチームに与えられる『表現力賞』はペルーの舞踊マリネラのグループ Soly Luna、多様性が高いチームへの『多様性賞』は、8か国のダンス好きの若者が前回のユースフェスタで知り合い結成された Dance Network C・K・C、『特別賞』は日本初のネパール人学校、エベレストインターナショナルスクールジャパンの幼稚園部と小学校低学年の小さな子どもたちがかわいいらしい舞踊で受賞しました。多文化★ユースフェスタは多文化共生センター東京の子どもたちだけではなく、他団体の若者や子どもたちにとっても自分たちを表現できる貴重な場となっています。



さいきん カッピョウコク 最近の活動報告

たくさんのプロジェクト!

おやこ 親子プロジェクト

8月3日土曜日の午後、みんなでお祭りに参加しました。今回、地域の方から尾久ハ幡神社のお祭りを教えていただき、ご尽力いただいたことで参加できることになりました。

お祭りに参加できるということで、親子日本語教室だけでなく多文化（小台橋）に来ているみんなに声を掛けさせてもらったところ、子どもプロジェクトや卒業生からの参加があり、ボランティア・事務局を含め20名を超える人数の参加となりました。

お祭りの出発地点で、子どもたちは係りの人から背中に「祭」と入った揃いの半被を貸してもらい、思い思いの着こなしをしていました。

係りの人から「太鼓をたたきたい人」と声がかかるとすぐさま「僕やりたい」と声を挙げ、山車に上がり大太鼓のたたき方を教わり、ドンドンドンとたたき始めたTK君、TK君に続いてSさん、Tさんと次々に太鼓の練習に加わりました。

お祭りは大太鼓を載せた山車を先頭に、お囃子、子ども神輿、おとな神輿の4体が町内を巡り歩きます。子どもたちは山車を引き、大うちわで風を送り、神輿を担ぎました。子ども神輿を最初から最後まで担ぎきったO君とTK君、立派でした。多文化小六トリオの大活躍、8月の熱い熱い午後を体験させてもらいました。

おやこ
親子プロジェクト 叶

こどもプロジェクト

土曜日の子どもプロジェクトは最近ますます参加する子どもが増えてきました。春頃に担当したときには日本語をあまり話せなかつた子どもたちが、最近では元気に日本語で話しかけてくれます。また、そろそろ受験を意識し始めたという話も耳にします。そんな姿に彼らの成長と努力を感じて嬉しくなります。

私は普段は社会科の非常勤講師として、千葉県内にある私立の中高一貫校で勤務しています。社会科以外については素人ですが、素人であるからこそできることもあるのではないかと感じるようになりました。それは、教育機関と日本の実社会をつなぐ、中間的存在として、外国にルーツを持つ子どもたちに接することができるからです。専門家であればもっとスマートにできるかもしれません、子どもたちが持ってくる課題（日本語や教科）を、日本語を使って試行錯誤し

ながら一緒に解決していくというプロセス自体に、教育的価値があるのではないかと思うのです。ボランティアに興味があるって、専門的な知識がないなどの理由から躊躇してしまう人もいると思います。たしかに知識や経験はあった方がいいです。その方がスムーズに勉強を教えることができます。

しかし、子どもたちのためにできることは勉強面だけではないと思います。子どもたちと積極的にコミュニケーションをとろうという気持ちがあれば、あとは素人であることを生かして、上手く教えようと構えずに参加してほしいと思います。

こどもプロジェクト 川野辺



いいね!



facebook.com/tabunkatokyo

フリースクールのできごと

多文化共生センター東京の事務局スタッフがフリースクールの毎日を Facebook に投稿しています。
たくさんの「いいね！」を頂いた記事をここでご紹介させていただきます。



48人

のかたが「いいね！」を押してくれました。

6月25日

6月23日(日)に荒川区生涯学習センターにて
「日本語を母語としない親子のための多言語高校進学ガイダンス」を
開催しました。今回のガイダンスには日本語を母語としない親子、約60名が参加しました。

たぶんかフリースクールからも何名かの生徒が参加しましたが、
「先生、高校入りたいですから、授業のあとで勉強します！」と
今回のガイダンスで刺激を受け、目の色が変わった生徒が！
今日から授業が終わった後で、自習を始めました。
「高校のために、勉強しなければなりません！」
受験までの道のりはなかなか厳しいですが、最後まで屈せず、がんばれ！受験生！



37人

のかたが「いいね！」を押してくれました。

7月3日

5月から日本語を勉強し始めた初級クラスは
中国から来た子とコンゴから来た子と一緒に勉強しています。
まだ2ヶ月しか一緒に日本語を勉強していませんが、何やらいつも盛り上がって、わきあいあい。
最近は電子辞書を使って、お互いの国のことばを調べて言ってみたり、
いろいろ駆使して、楽しいおしゃべりしています。
今日はお互いに中国語とフランス語を教え合いっこ。
「中国語はちえんちえんちえんちえん。」とコンゴ出身のSくん
「フランス語はしゃしゃしゃしゃしゃー。」と中国出身の乙さん
「先生、中国語は音楽です。(音楽みたい)」
おそらく初めは「音楽」だった日本語も、今ではちゃんと会話になってきたね。
会話が上手なコンゴチームが中国チームに、
漢字が得意な中国チームがコンゴチームに教えてあげて、
なかなかいいチームワークです。

これからも Facebook にフリースクールの日常を投稿していきます。
皆様「いいね！」をよろしくお願ひします。

2013年度 会員募集!

多文化共生センター東京では、多文化共生社会を私たちと共につくっていく会員を募集しています！会費はセンターの運営費の他、様々な事業のために使われます。会員の皆様へは、この mingle の他、メーリングリスト等を通して多文化共生に関する情報を提供します。

■年会費(4月 - 翌3月)

正会員 5,000円

賛助会員(個人) 3,000円 / 1口

(団体) 30,000円 / 1口

※10月 - 翌3月入会の場合は半額です。

■申し込み

下記いずれかの方法で会費をお振込み下さい。

①郵便局から：00110-8-407588

名義：多文化共生センター東京

(振込用紙に「入会希望」とご記入下さい。)

②銀行から：ゆうちょ銀行 O19 店

当座 0407588

加入者名：トクヒ) タブンカキョウセイセンター

トウキョウ

※銀行振込の場合、お振込後にメールや電話で、名前・住所・電話番号・メールアドレス・「入会希望」・「ニュースレターへのお名前掲載の可否」をお知らせ下さい。

ありがとうございます

皆様の会費・寄付は活動に大切に使わせて頂きます。
(順不同・敬称略 7/1 ~ 9/30(現在))

■正会員

【継続】高橋宗子、金子信子、山辺真理子、高橋克文

■賛助会員

【継続】南繁、竹内みどり

■寄付

(たぶんか子ども基金) 長須賀厚、田中弘志

(一般寄付) 関本保孝、若島礼子、大嶺浩、多田佳明、風間晃

Thank you!



編集後記

10月、いよいよ受験シーズンが近づいてきました。たぶんかフリースクールの生徒たちも、模試を受けたり、高校見学に行ったりして、すこしづつ受験を意識しています。土曜日は13:00からの親子プロジェクトにも、15:30からの子どもプロジェクトにも子どもたちがたくさん勉強に来ているので、ボランティアさんを大募集しています。興味のある方は事務局までご連絡ください。(中野)

みんなぐる vol. 42 2013年・10月号(10月発行)

編集：多文化共生センター東京広報チーム

(鴻森大介、柴山智帆、多田佳明、張学鑫、中野真紀子、榎木典子、平川詩子、湯川光太郎)

発行：特定非営利活動法人多文化共生センター東京

*「みんなぐる」は英語 "mingle" = 「(2つ以上のものが各要素が区別できる程度に) 混ざる・一緒にする・交流する」から名づけました。



認定NPO法人

多文化共生センター東京

Multicultural Center TOKYO

事務局・たぶんかフリースクール本校

(Tabunka free school, Main Campus)

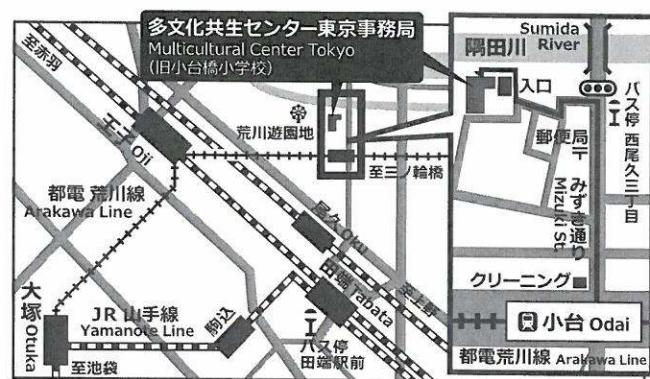
〒116-0011 東京都荒川区西尾久 6-9-7 (旧小台橋小学校3F)
6-9-7 Nishi-Ogu, Arakawa-ku Tokyo

TEL/FAX: 03-6807-7937 E-mail: tokyo@tabunka.jp
Open: 火曜日～金曜日 9:00～18:00 土曜日 11:00～19:00
Access: 都電荒川線「小台」駅から徒歩7分

たぶんかフリースクール新宿校 (Shinjuku School)

所在地: 〒169-0073 東京都新宿区百人町 1-17-14-101
1-7-14-101 Hyakunincho, Shinjuku-ku Tokyo

TEL/FAX: 03-5389-8825
Open: 月曜日～金曜日 9:00～18:00
Access: JR山手線「新大久保駅」徒歩3分、
JR中央・総武線「大久保駅」徒歩2分



都営バス“東43”系統「荒川土手行」。「西尾久3丁目」下車徒歩3分

都電荒川線「小台」駅から徒歩7分 JR宇都宮線・高崎線「尾久」駅から徒歩15分